

リーディングDXスクール事業【実践事例】

新潟市立白新中学校

【取組内容④】

職員会議や研修における効率化

BEFORE

【教師】

- 予定や活動計画等、教務室のPCで確認する必要があり、手間と時間がかかっていた。
- 研修情報が様々なところに散らばっているため、手軽に必要なタイミングでアクセスできない環境になっていた。
- 校内研修において、限られた時間の中で、いかに効率よく協働的に学びを深められる研修にしていくかが課題となっていた。

姿の
変容

AFTER

【教師】

日常業務や研修等において、必要なタイミング・場所で、必要な情報を手軽に入手できるようになったり、クラウド上での協働的な学び合いが可能となり、日常業務の効率化や研修の質的向上につながった。

①Google calendarでの情報共有

Google calendarに月歴や週歴や活動計画などの予定を入力し、いつでもどこでも確認ができるようにする。



②Google classroomでの研修情報の共有

classroomは、「校内研修」のクラス等を作成し、それに関わる情報をアップすることで、「情報を一元化」できるよさがある。例えば校内研修のクラスでは、研修案内や指導案、授業動画、資料をアップし、教師一人一人が必要に応じて、情報にアクセスできる。また、職員の誰でもアップすることができるため協働的に情報共有の環境をつくりだしていくことができる。



③クラウド上での教師の学びの記録

クラウド上で学びの記録をする。グループの学ぶ過程が記録されるとともに、他のグループの学びも共有することができ「学びのプロセスを一元化」できる。



成果 * () 内は手立てとの関わり

- ・校務を効率的に行えることで、教師一人一人の学ぶ時間が確保される。それにより、いつでもどこでも授業動画を見たり、他の教員の考えを参照できるようになり、教師の考えを広め深めるためのツールとして活用できた。(①③)
- ・classroomは情報が一元化され、必要な情報を教師一人一人が得ることができるようになった。(②)
- ・紙やインクにかかる経費が削減できた。(①②)
- ・クラウド上で、教師の学ぶ過程が蓄積されることで、協働的に学びを広げ深めることができるとともに、学びを振り返る上で有効であった。(③)

課題

- ・Google calendarに情報を載せる教員が一人のため、負担が大きい。(②)
- ・授業動画の撮影位置によって、生徒の表情や、話している内容が伝わらない。(②)
- ・互いに学びをフィードバックする等、相乗的に学びを深める手立てが必要である。(②)

方策

- ・Google calendarを一人で運用するのではなく、役割を分担し、職員みんなでよりよい環境を作る工夫をしていく。そのためにICT活用スキルの研修を行う。(②)
- ・必要な情報がアップされるように工夫する。例えば、授業動画は、抽出生徒を設定して撮影するなど、授業者のニーズに応じた情報をアップしていく。(②)
- ・classroomのコメント機能で協働的に意見交流をしたり、互いの授業実践についてフィードバックを行い、互いの学びを相乗的に促進させていく。(②)